

岡病防第3号
平成31年4月9日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成31年度病害虫発生予報第1号

平成31年4月9日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	やや早	並	タマネギ	べと病	—	多
モモ	灰星病 カメムシ類	やや早 並	並 やや多	イチゴ	ハダニ類	—	並
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	並				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. 岡山県農林水産総合センター農業研究所の麦作況試験の調査では、麦の生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、散布適期は二条大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回である。
- イ. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が15℃以上でかつ、日最低気温10℃以上、湿度80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成および子とう胞子飛散好適日は3月下旬から見られた。
- ウ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が10,000粒中5粒以上混入すると「規格外」となる。
- オ. 平成30年度植物防疫情報第9号（平成31年3月22日発表）「麦類赤かび病の防除の徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. モモの開花時期は、平年よりやや早い。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 **並**

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、発生を助長する条件ではない。

イ. 4月～7月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部でやや多かった。

ウ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯（赤磐市）への飛来予測数はチャバネアオカメムシが1035.7頭（平年352.0頭）、クサギカメムシが48.

7 頭（平年 34.0 頭）でいずれも平年よりやや多いと予測される。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、ナスでは発生を認めず、トマトでは発生圃場率は33.3%で、いずれも平年（ナス：14.0%、トマト：69.4%）より低かったが、イチゴでは33.3%で、平年（12.1%）より高かった。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギべと病

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は55.6%で平年（28.5%）より高かった。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

イ. 平成30年度病害虫発生予察注意報第3号（平成31年3月26日発表）参照。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年（57.1%）並であった。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年並か低く、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

